

世田谷区「いつまでも快適に暮らせる家づくりのヒント」編集

世田谷区 ユニバーサルデザイン環境整備事業の支援委託

2011年度

東京都 世田谷区 都市整備部 地域整備課 都市デザイン担当

<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/030/d00038714.html>

業務概要

目的

区民が安心して住み続けられる地域社会の実現、生活環境の整備の一環として、区民が住宅の建築や購入を考える際に、ユニバーサルデザイン(UD)の視点で住宅を見て評価できるような、啓発のための住宅のUDガイドブックを作成する。

概要

検討に際し、公募区民と共に検討ワークショップを5回行い、成果としてのパンフレット(A4判、16頁)の編集の検討を行った。

検討ワークショップの概要

参加者

公募区民30名(車いす使用者、聴覚障害者を含む)、関係課区職員11名ほか。

第1回ワークショップ

住宅・建築のUDの専門家(佐藤克志先生、日本女子大准教授)から、基本的な考え方や事例紹介を伺い、参加者はそれぞれにレポートしてきた事例を基に、住宅のUDについて意見交換し、本ワークショップのテーマについて共通認識を持った。

第2回ワークショップ

「人にやさしい住まいづくり体験館」(ハウスクエア横浜)を見学し、シニア体験や車いすを使用して、展示されているモデル住宅のバリアフリーの工夫を体験した。

第3回～第5回ワークショップ

「いつまでも快適に暮らせる家づくりのヒント」の冊子の構成、掲載する配慮事項の内容、描くシーンの検討、チェックリストなど、事務局のたたき台を基に、参加者と共に検討した。特に、区民にわかりやすい表現に配慮した。



上：編集の検討、住まいづくり体験館の見学

右：「いつまでも快適に暮らせる家づくりのヒント」の表紙、アプローチのページ抜粋



関連業務

世田谷区「UDフォーラム」の企画・実施

フォーラムでは車いす体験や視覚障害者のガイドヘルプ体験、聴覚障害者との筆談による買物体験、「いつまでも快適に暮らせる家づくりのヒント/UDの家づくり」完成報告のほか、今後のUDまちづくりテーマについての意見交換など行った。

右：参加した聴覚障害者のタブレットを使った筆談による買物



公園整備における、多様な利用者の意見ヒアリング(UDレビュー)

設計中の区立公園について、設計図や公園の模型を使って、多様なニーズのある車いす使用者や視覚障害者、子育て世代の意見を、整備担当課と設計者が参加してヒアリングし、UDの視点を整理した。このように設計段階でUDの検討を行う「UDレビュー」の手法を試行した。

右：視覚障害者に公園の模型で設計内容を説明

